

2020 年 1 月 30 日

2019 年度 聖路加国際大学大学院課題研究

がん患者の ACP に関する文献レビュー

Advance Care Planning for Cancer Patients :
A Literature Review

18MN015

中 野 孝 子

要旨

【目的】文献レビューを通し、がん患者の ACP に関する知見を明らかにし、がん患者に対する ACP の取り組みへの示唆を得ることを目的とした。

【方法】「PubMed (Medline)」「Embase」を情報源とし、がん患者の Advanced care planning (ACP) に焦点をあて、「ACP」群「がん」群で論理積によるキーワード検索を行い、文献をレビューした。研究目的により、対象文献を分類し、批判的吟味を行い、結果を統合した。

【結果】最終的に 16 文献を分析対象とした。ACP に関する教育ツール・プログラムの効果について、医学部生に対する ACP 教育の成果として患者の満足度と学生自身の ACP に対する自信が有意に上昇したことが示された ($p < .01$)。教育ツールではウェブサイトでの ACP に関する情報提供への満足度が高い傾向が示された ($p = .054$)。ACP を経験した患者の体験として、ACP に関する声かけや ACP にまつわる対話を開始した際患者は死を想起しアンビバレンスな感情を抱きやすいことが示された。また ACP の普及への影響要因として、患者の ACP の取り組みに対するレディネスの必要性、情報の共有/開示への肯定的評価と拒絶の可能性が示された。ACP を促進するためのコミュニケーションについては、看護師主導のプログラムにより患者の発言が有意に増加し ($p < .05$)、患者コーチングプログラムでは有意に増加した ($p < .01$) ことが示された。また医療者に対してはロールプレイを使用したトレーニングが有効であると報告された。ACP の導入効果に関して、ICU でのケアや死亡の減少、延命治療の意向の減少、コストの削減、ホスピスの利用の割合が高いことなどが示された。ACP を早期に開始した群は病院外の死亡の割合やホスピス利用者の割合が有意に高いことが示された ($p < .001$)。ACP の導入により患者の希望/絶望に変化はなく、家族の心配/抑うつは ACP 導入群と対照群とに有意差はみられなかった。ACP 導入群は、患者の意向に関する議論をしたと認識する割合が有意に高いが ($p = .05$)、意向が実現したという認識は対照群と有意差はみられなかった ($p = .89$)。また、ACP を導入した群は終末期の意向を文書化する割合が有意に高いことも示された ($p < .001$)。

【結論】ACP の取り組みにおいては、医療者への ACP 教育、患者が死を想起することへの配慮、患者・家族に対する適切な情報提供、チームでの取り組み、死亡場所の選択とヘルスケア利用の観点から、早期開始が必要とされる。ACP を促進させるコミュニケーションに関して、患者へのサポートと医療者へのコミュニケーショントレーニングが有効であり、医療者向けのコミュニケーションのスキルを高める教育や患者サポートに関する教育への取り組みが現場で求められる。がん患者の ACP に関する研究は少なく、今後更なる研究が求められる。